

解説書

演奏能力の向上のための
エクササイズ2

採譜・解説 / アンソニー・ヴィッツェイ

リットーミュージック



目次

はじめに	4
------	---

PART 1

Scale and Sol-Feg Exercises ● スケール / ソルフエージュ・エクササイズ	5
---	---

exercise 1a	major scale positions "E" string ● 4弦 (E弦) からのメジャー・スケール	6
exercise 1b	major scale positions "A" string ● 3弦 (A弦) からのメジャー・スケール	7
exercise 1c	major classical exercise ● クラシック曲を利用したメジャー・スケール・エクササイズ	8
exercise 2	2 octave ● 2オクターヴのフィンガリング	10
exercise 3a	major scale in 4ths ● メジャー・スケール / 4度のシーケンス	11
exercise 3b	major scale in 5ths ● メジャー・スケール / 5度のシーケンス	12
exercise 3c	major scale in 6ths ● メジャー・スケール / 6度のシーケンス	13
exercise 3d	major scale in 7ths ● メジャー・スケール / 7度のシーケンス	14
exercise 4a	pentatonic scale ● ペンタトニック・スケール	15
exercise 4b	minor pentatonic 8th note exercise ● 8分音符のマイナー・ペンタトニック・エクササイズ	16
exercise 4c	major pentatonic 8th note exercise ● 8分音符のメジャー・ペンタトニック・エクササイズ	17
exercise 4d	minor pentatonic triplet exercise "easy" ● 簡単な3連譜のマイナー・ペンタトニック・エクササイズ	19
exercise 4e	minor pentatonic triplet exercise "hard" ● 難しい3連譜のマイナー・ペンタトニック・エクササイズ	20
exercise 4f	major pentatonic triplet exercise "easy" ● 簡単な3連譜のメジャー・ペンタトニック・エクササイズ	21
exercise 4g	major pentatonic triplet exercise "hard" ● 難しい3連譜のメジャー・ペンタトニック・エクササイズ	22
exercise 5a	sol-feg major scale ● メジャー・スケールのソルフエージュ	23
exercise 5b	sol-feg chromatic scale ● クロマティック・スケールのソルフエージュ	24
exercise 5c	sol-feg triads ● 3音 (トライアド) のソルフエージュ	25
exercise 5d	sol-feg melody ● メロディのソルフエージュ	26

PART 2

Improvisation & Rhythm Studies ● インプロヴィゼーション / リズム・スタディ	27
---	----

exercise 6a	triad inversion ● 3和音 (トライアド) の転回	28
exercise 6b	inversion over easy song ● 簡単な曲の中での転回	29
exercise 6c	inversion over difficult song ● 難しい曲の中での転回	31
exercise 7a	16th note rhythm relationship ● 16分音符のリズムの理解	33
exercise 7b	16th note rhythm ex. easy ● 簡単な16分音符のリズム (難易度1)	34
exercise 7c	16th note rhythm ex. more difficult ● 少し難しい16分音符のリズム (難易度2)	35
exercise 7d	16th note rhythm ex. hard ● 難しい16分音符のリズム (難易度3)	36
exercise 7e	16th note duration relationship ● 16分音符の長さの理解	38
exercise 7f	16th note tie exercise easy ● 簡単なタイ付き16分音符 (難易度1)	39
exercise 7g	16th note tie exercise more difficult ● 少し難しいタイ付き16分音符 (難易度2)	40

exercise 7h	16th note tie exercise hard ● 難しいタイ付き16分音符 (難易度3)	42
exercise 8a	classical piece ● クラシカル・エチュード1	44
exercise 8b	Bach minuet ● クラシカル・エチュード2 (バッハのメヌエット)	45
exercise 9a	minor blues solo ● マイナー・ブルースのソロ	47
exercise 9b	minor blues 8th note solo ● 8分音符によるマイナー・ブルースのソロ	48
exercise 10a	modern blues solo ● モダン・ブルースのソロ	49
exercise 10b	modern blues 8th note solo ● 8分音符によるモダン・ブルースのソロ	51

PART 3

Slap Bass Technique ● スラップ・テクニク	53
---------------------------------	----

exercise 11a	double thumbing ● ダブル・サムピングとブル	54
exercise 11b	triple thumbing ● トリプル・サムピングとブル	56
exercise 11c	thumb & double pop ● サムピングと2つ打ち	57
exercise 11d	combining double thumb & pop ● ダブル・サムピングと2つ打ち	58
exercise 11e	thumb & triple pop ● サムピングと3つ打ち	60
exercise 12a	hammer-on & pull-off exercise ● ハンマリング・オンとプリング・オフ	61
exercise 12b	continues 16th note ● 連続した16分音符のエクササイズ	63
exercise 13a	easy slap groove ● 簡単なスラップによるグルーヴ・エクササイズ	64
exercise 13b	slap groove with thumb technique easy ● サムピングを使ったスラップによる簡単なグルーヴ・エクササイズ	65
exercise 13c	slap groove with thumb technique more difficult ● サムピングを使ったスラップによる少し難しいグルーヴ・エクササイズ	66
exercise 13d	slap groove combining techniques ● 様々なテクニクを組み合わせたスラップによるグルーヴ・エクササイズ	68

PART 4

Finger Style Groove ● フィンガースタイル・グルーヴ	70
--------------------------------------	----

exercise 14a	right hand octave exercise ● 右手のためのオクターヴ・エクササイズ1	71
exercise 14b	right hand double octave ● 右手のためのオクターヴ・エクササイズ2	72
exercise 15a	basic string skipping ● 基本的なスキッピング (弦飛び) ・エクササイズ	74
exercise 15b	skipping pattern ● スキッピング・パターン・エクササイズ	75
exercise 15c	diatonic triad skipping pattern ● ダイアトニック・トライアドによるスキッピング・パターン	76
exercise 15d	double skipping over two chords ● 2コードにおけるダブル・スキッピング	77
exercise 16	right hand string crossing ● 右手のためのストリング・クロッシング・エクササイズ1&2	78
exercise 17a	groove with octave skipping ● オクターヴ・スキッピングによるグルーヴ・エクササイズ	79
exercise 17b	groove with right hand crossing ● 右手のためのストリング・クロッシング・エクササイズ3 (グルーヴ・エクササイズ)	81
exercise 17c	groove-combining techniques ● 様々なテクニクを組み合わせたグルーヴ・エクササイズ	83

デモ演奏について	85
----------	----

おわりに	86
------	----

プロフィール	87
--------	----

はじめに

「ベーシストのための演奏能力開発エクササイズ2」へようこそ。前作に引き続き、このビデオで私が目指しているのは、ベースを演奏する上での基礎をしっかりと固めることと、あらゆるジャンル／スタイルの音楽にも柔軟に対応できるようにするという事です。

この2作目のビデオは1作目の単なる続編ではありませんが、実際には前回のものに比べて内容的に高度であったり、違った角度から焦点を当てているところもあります。私としては、皆さんに多彩なプレイのできるベーシストになってもらいたいと思っています。そのためには、ここで紹介するすべてのエクササイズに取り組んでみてください。既に知っていたり、練習したことのあるようなエクササイズがあっても、もう一度トライしてみてください。皆さんが間違いなく上達できるよう、各パートを構成してあります。

自分で興味が出てきたエクササイズは、時間をかけて練習してみてください。しかし重要なことは、常に“演奏を楽しむ”ということです。

小さな前進や成果のひとつひとつが大切です。日々練習することによって、あなたの演奏は必ず向上していくはずですよ。頑張ってください。

PART 1

Scale and Sol-Feg Exercises

スケール／ソルフェージュ・エクササイズ

パート1では、フレット・ポジションと音との位置関係を学ぶことに焦点を当てています。

最初はまず、ひとつのスケールで異なるフィンガリングを紹介しています。

その次は、インターヴァルを学ぶエクササイズになります。ここではすべてのスケールで練習してみることが重要です。

このパートの最後では、基本的なサイト・シンギング(視唱法)を紹介しています。実際に自分で演奏している音を口ずさむ練習です。ここではいくつかのソルフェージュ(階名読譜・視唱)を学び、自分の弾いている音をきちんと理解できるようにします。

exercise 1a

major scale positions "E" string

● 4弦 (E弦) からのメジャー・スケール

90 A Major

1

4

7

exercise 1a/1b ◀ 主な目的

- 同じ音を違ったポジションでも弾けるようにする練習です。
- ネックと音の位置関係を学ぶことができます。

exercise 1a/1b ◀ 練習方法

- 各ポジションに慣れるまで練習を続けましょう。
- メトロノームを使い、最初はゆっくりとしたテンポで練習します。慣れてきたらテンポを徐々に速めていきましょう。
- ルート音を変えながら、すべてのメジャー・スケールやモード・スケールを使ってこの練習を行なってみてください。

exercise 1a/1b ◀ ポイント

- スムーズに弾けないポジションがあれば、そこを重点的に練習してみてください。
- ミュージシャンの多くは、スケール弾きがワン・パターンになりがちです。この練習でネック上の音の位置を覚えることができますので、演奏に広がりが出てきます。

exercise 1b

major scale positions "A" string

● 3弦 (A弦) からのメジャー・スケール

90 D Major

1

4

7

exercise 1c

major classical exercise

●クラシック曲を利用したメジャー・スケール・エクササイズ

1 80

6 3 5 6 5 3 6 5 5 5 6 3 6 5 6 8 5 6 5 8 6 5 8 6 7 6 8 5 8

5

6 8 5 6 8 6 5 8 6 5 8 8 8 5 6 5 8 5 6 8 5 8 6 5 8 6 5 5 5 6 8 6

9

5 6 8 5 7 5 8 6 5 8 7 7 8 5 8 6 8 5 7 8 7 5 8 6 5 8 8 5 6 5

13

8 5 7 8 5 8 7 5 8 7 5 10 5 7 8 7 5 7 8 5 7 5 8 7

16

5 8 8 7 8 7 5 8 6 5 8 6 8 8 6 7 8

exercise 1c 主な目的

●あらゆるポジションをすべての弦で弾けるように、簡単なクラシック曲で練習します。

exercise 1c 練習方法

●様々なポジションを組み合わせ、異なる方法で練習してみましょう。1曲の中でいくつの異なるフィンガリングを見いだせるでしょうか。

exercise 1c ポイント

●フィンガリングを変えることにより、どのフィンガリングが良いサウンドを得られるのかがわかってきます。

exercise3b

major scale in 5ths ● メジャー・スケール / 5度のシーケンス

90

1

3

5

exercise3c

major scale in 6ths ● メジャー・スケール / 6度のシーケンス

90

1

3

5

exercise3a/3b ◀ 主な目的

- 手の筋力を鍛え、機敏に動くようにするものです。
- 指板上のポジションの理解に役立ちます。

exercise3a/3b ◀ 練習方法

- すべてのキーで、すべてのスケールを使って練習してみましょう。
- 様々なフィンガリングを使って難易度を高くしていきましょう。
- 異なるスケールにおける類似性を見出しながら練習してください。

exercise3a/3b ◀ ポイント

- この練習は、ベースラインやソロを組み立てる上で役立ちます。まずは自分で覚えやすいパターンをひとつ作ってみましょう。

exercise3d

major scale in 7ths ●メジャー・スケール／7度のシーケンス

90

1

3

5

exercise3c/3d ◀ 主な目的

- exercise3aと同様です。

exercise3c/3d ◀ 練習方法

- exercise3aと同様です。

exercise3c/3d ◀ ポイント

- インターヴァル(音程)が広がると、指を広げるのが段々困難になっていきます。
- 速いテンポでもきちんと弾けるようにしましょう。
- 手が痛みだしたら少し休みましょう。

exercise4a

pentatonic scale ●ペンタトニック・スケール

90 Major Pentatonic Scale

1

4

exercise4a ◀ 主な目的

- メジャー・ペンタトニック・スケールおよびマイナー・ペンタトニック・スケールの練習を紹介します。ベーシックなフィンガリングで行ないます。

exercise4a ◀ 練習方法

- メトロノームを使いながら、半音(1フレット)ずつ上げて弾いてみましょう。
- 慣れてきたらテンポを徐々に速めていきましょう。

exercise4a ◀ ポイント

- これらのスケールは、ジャズからポップスまで、あらゆるジャンルにおいて使用頻度の高いものなので、しっかりとマスターしてください。

exercise4b

minor pentatonic 8th note exercise

● 8分音符のマイナー・ペンタトニック・エクササイズ

1 100

3 6 3 5 6 3 5 3 | 3 5 3 5 5 3 5 3 | 3 5 3 5 5 8 5 7

4

8 10 7 10 10 12 10 12 | 10 7 10 8 7 5 8 5 | 5 3 5 3 3 5 3 5

7

5 3 5 3 3 5 3 6 | 5 3 6 3 3 1 3 1 || 3 6 3 5 3 5 3 6

10

3 5 3 5 3 5 3 5 | 3 5 3 5 7 5 8 5 | 8 10 7 10 12 10 12 10

13

8 10 7 10 7 5 8 5 | 3 5 3 5 3 5 3 5 | 3 5 3 5 3 5 3 5 | 6 3 6 3 5 3 6 3 1

exercise4c

major pentatonic 8th note exercise

● 8分音符のメジャー・ペンタトニック・エクササイズ

1 100

3 5 2 5 5 2 5 2 | 2 5 2 5 5 2 5 4 | 2 5 2 4 5 7 4 7

4

7 9 7 9 9 12 9 12 | 9 7 9 7 7 4 7 5 | 4 2 5 2 2 5 2 5

7

5 2 5 2 2 5 2 3 | 5 2 5 3 2 5 3 0 | 3 5 2 5 2 5 2 5

10

2 5 2 5 2 5 2 5 | 2 5 2 4 7 4 7 5 | 7 9 7 9 12 9 12 9

13

7 9 7 9 7 4 7 5 | 2 5 2 4 2 5 2 5 | 2 5 2 5 2 5 2 5 | 3 5 2 5 2 5 3 0

exercise4b/4c ◀ 主な目的

● 2オクターヴ間のスケールを練習するための、比較的やさしいパターンです。

exercise4b/4c ◀ 練習方法

- パターンは覚えてしまいましょう。
- すべてのキーで弾けるようにします。
- テンポをできる範囲で速めていきましょう。

exercise4b/4c ◀ ポイント

- 4弦(E弦)から始めると良いでしょう。ネック上を上がっていく時の方が演奏しやすくなります。
- 5弦ベースおよび6弦ベースを使用している人は、3オクターヴ間でも練習してみてください。

exercise4d

minor pentatonic triplet exercise "easy"

● 簡単な3連譜のマイナー・ペンタトニック・エクササイズ

1 80

3

5

7

exercise4e

minor pentatonic triplet exercise "hard"

●難しい3連譜のマイナー・ペンタトニック・エクササイズ

9 80

3 6 5 6 3 3 5 5 3 3 | 3 5 5 5 8 7 8 10 10 12 12

11

10 7 8 7 5 5 3 3 3 5 5 | 5 3 3 3 5 6 5 3 3 3 1 1

13

3 6 3 3 5 3 6 3 5 3 5 | 3 5 3 8 5 7 5 8 5 10 7 10

15

12 10 12 8 10 7 10 5 8 5 | 7 5 8 3 5 3 5 5 3 6

exercise4d/4e/4f/4g◀主な目的

- インプロヴィゼーションでよく用いられるパターンを覚えます。
- 4拍子の上で3連符の感覚を身につけましょう。

exercise4d/4e/4f/4g◀練習方法

- エクササイズを区切って練習してみてください。パターンを覚えるまでは2小節または4小節のフレーズで弾いてみましょう。
- 最初は上行だけ、次に下行だけというように練習してみてください。

exercise4f

major pentatonic triplet exercise "easy"

●簡単な3連譜のメジャー・ペンタトニック・エクササイズ

1 80

3 5 2 5 2 5 2 5 2 5 | 2 5 2 5 2 4 7 9 7 9

3

12 9 12 9 12 9 7 4 7 4 7 5 | 2 5 2 5 2 5 2 5 2 5 2 5

5

3 5 2 5 2 5 2 5 2 5 | 2 5 2 4 2 5 7 9 7 9

7

12 9 12 9 12 9 7 4 7 5 7 4 | 2 5 2 5 2 5 2 5 2 5 2 5

exercise4d/4e/4f/4g◀ポイント

- この2つのエクササイズは、さらに難しくすることができます。例えば3連譜のペンタトニックのインターヴァルを広げていけば、それだけ演奏が困難になります。
- 常に音の長さを均一に、そしてスムーズにプレイしましょう。

exercise4g

major pentatonic triplet exercise "hard"

●難しい3連譜のメジャー・ペンタトニック・エクササイズ

9 80

3 5 5 5 2 2 2 5 5 2 2 | 2 5 4 5 7 7 7 9 9 12 12

11

9 7 7 7 4 5 4 2 2 2 5 5 | 5 2 2 5 5 5 2 3 2 5 0

13

3 5 2 2 5 2 2 5 5 2 4 | 2 5 2 7 9 7 5 7 5 9 12 9

15

12 9 12 7 5 7 9 7 9 5 7 5 | 7 4 7 2 5 2 4 2 5 5 2 5

exercise5a

sol-feg major scale ●メジャー・スケールのソルフェージュ

1 C Major

Do Re Mi Fa So La Ti Do

5

Do Ti La So Fa Mi Re Do

exercise5a ◀ 主な目的

●メジャー・スケールのソルフェージュ(階名読譜・視唱)を練習します。

exercise5a ◀ 練習方法

- すべてのキーでメジャー・スケールの階名がわかるようにしましょう。
- ベースを弾かずにスケールを口ずさめるようにもしましょう。

exercise5a ◀ ポイント

●演奏しながらそれを歌えるというのは重要なことです。これは耳の訓練にもなります。

exercise5a ◀ 補足

●恥ずかしがらずにどんどん歌うこと。おわかりのように私は歌手ではありませんが、自分のプレイは口ずさむようにしています。

exercise5b

sol-feg chromatic scale

●クロマティック・スケールのソルフェージュ

1 C Major



Do Di Re Ri Mi Fa Fi So Si La Li Ti Do

5 Do Ti Te La Le So Se Fa Mi Me Re Ra Do

exercise5b ◀ 主な目的

- すべての階名を理解するソルフェージュの練習です。

exercise5b ◀ 練習方法

- ポップスの曲などを用いて、ベースラインやメロディを階名で歌ってみましょう。ベース・ソロなどもコピーできるようになっていくはずですよ。

exercise5b ◀ ポイント

- 同じ音程でも、いくつかの階名はスケールを上昇するときと下降するときとは違うことがわかりでしょう。これは「異名同音」と呼ばれるもので、例えばC#とDbの関係がそうです。ピッチは同じでも名前が異なります。これはメロディによって変わってきます。もしCから半音上がる場合はC#となり、「ド」・「ディ=Di」と歌います。反対にDから半音下がってDbとある場合は、「レ」・「ラ」(ここで言う「ラ」とは、Aの「ラ=La」ではなく、Dbの「ラ=Ra」です)と歌います。いずれにせよピッチは同じですが、異なる階名を使います。

exercise5c

sol-feg triads ● 3音(トライアド)のソルフェージュ

1 Major



Do Mi So Do Do So Mi Do

3 Minor



Do Me So Do Do So Me Do

5 Augmented



Do Mi Si Do Do Si Mi Do

7 Diminished



Do Me Se Do Do Se Me Do

9 Suspended 4th



Do Fa So Do Do So Fa Do

exercise5c ◀ 主な目的

- 3音構成の三和音であるトライアドをソルフェージュで学びます。
- 異なるタイプのトライアドを耳で聴いて理解できるようにします。

exercise5c ◀ 練習方法

- まずトライアドをルートから口ずさんでみましょう。次に、すべてのキーで、さらには転回して(3つの音の上下関係を入れ替える。例:ドミソド→ミソドミ)歌ってみましょう。楽器なしでも歌えるようにしましょう。

exercise5c ◀ ポイント

- このエクササイズは、コード進行の理解にとっても役立ちます。トライアドの後には、4音構成のコードを使って同じ練習をしてみましょう。一般的なコード進行の上でアルペジオを歌ってみるのも良い練習です。

exercise5d

sol-feg melody ● メロディのソルフエージュ

1 100
so do ti la so la ti do mi mi fa re do so

6
do ti la so la ti do mi mi fa re do so

10
mi do mi so do la ti do ti so la fi so la ti

14
do ti la so la ti do mi mi fa re do

exercise5d ● 主な目的

●簡単なメロディを階名で歌えるようにするためのソルフエージュ練習です。

exercise5d ● 練習方法

●いろいろなメロディを階名読みして歌ってみましょう。最初は階名を音符の上を書いて覚えるといいでしょう。そのうちに書かなくてもわかるようになります。

exercise5d ● ポイント

●11小節目の4拍目はF # 「フィ=Fi」になっています。これは、次の12小節目の1拍目G 「ソ=So」へと半音上がるため、G b 「セ=Se」ではなくF # 「フィ=Fi」を使います。

exercise5d ● 補足

●国によっては「固定ド唱法」を使っているところもあります。この場合、キーに関係なくCの音は常に階名が「ド」となります。ちなみにアメリカでは「移動ド唱法」を使っています。この場合、その曲やメロディのキーのルートになる音が「ド」となります。例えばAメジャーであればAが「ド」にあたります。DマイナーであればDが「ド」になるわけです。

PART2

Improvisation & Rhythm Studies

インプロヴィゼーション／リズム・スタディ

パート2では、より高度な音楽的技術を身に付けていきます。

最初はトライアドを用いて様々なコード進行を学びます。これによってコードの特性を知り、コードの理解を深めていきます。

さらには、16分音符に慣れるエクササイズに取り組みます。いくつかの難しいリズム・コンビネーションを練習し、似かよったリズム・フォームの関係についても学んでいきます。

最後は、エクササイズにクラシック音楽やジャズを取り入れて、親しんでもらうようにしています。

exercise6a

triad inversion ● 3和音(トライアド)の転回



exercise6a ◀ 主な目的

● 転回されてもルートが何であることをわかるようにする練習です。

exercise6a ◀ 練習方法

● まずはCから始めて、考えられる転回形をすべてのトライアドで演奏してみましょう。その際に5フレット目よりも上のフレットは使わないようにします。同様に他の音すべてでも練習してみましょう。

exercise6a ◀ ポイント

● 4弦(E弦)や3弦(A弦)の開放弦の使用には、充分時間をかけて練習してください。

exercise6b

inversion over easy song ● 簡単な曲の中での転回

60 2&4 CMaj7 C-7 F7

5 GMaj7 Bb-7 Eb7

9 A-7 D7 B-7 E-7

13 A7 A-7 D7 Db7

17 CMaj7 C-7 F7

21 GMaj7 Bb-7 Eb7

25 A-7 D7 B-7 E-7

29 A7 A-7 D7 GMaj7 D-7 G7

exercise6b ◀ 主な目的

- コード進行の中で異なる転回形を理解していきます。
- コードの構成音を聴き取り、ネックと音の位置関係を理解します。

exercise6b ◀ 練習方法

- トライアドの場合、転回形は全部で6パターンありますが、これらの中から転回形をひとつ選び、それを使って曲全体を弾いてみます。
- 5フレット目よりも上のフレットは使わないようにします。
- メトロノームは2拍目と4拍目で鳴らします。

exercise6b ◀ ポイント

- 私と同じリズムで弾いてみましょう。
- 譜面に書かれているように、ここでは4音構成のコードにおけるトライアドだけを弾いています。

exercise6c

inversion over difficult song ● 難しい曲の中での転回

70 - 2&4

1 EbMaj7 F-7 Bb7 EbMaj7 Eb-7 Ab7

5 DbMaj7 G-7(b5) C7(b9) FMaj7 F-7(b5) Bb7(b9)

9 EbMaj7 F-7 Bb7 EbMaj7 Eb-7 Ab7

13 DbMaj7 G-7(b5) C7(b9) FMaj7 F-7(b5) Bb7(b9)

17 AbMaj7 Ab-7 Db7

21 GbMaj7 F-7 Bb7

(DS Al coda)

25 Eb7 D7 Db7 C7 F-7 Bb7 EbMaj7 Bb7

exercise6c ◀ 主な目的

● 難しいコード進行や、1小節の中にコードが2つある曲での転回を練習します。

exercise6c ◀ 練習方法

- まず、ひとつの転回形を使って1回曲を演奏してみましょう。
- 最初はゆっくりとしたテンポで始め、慣れてきたらテンポを徐々に速めていきましょう。

exercise6c ◀ ポイント

- 5フレット目より下のフレットを使用しましょう。
- 演奏をしないで転回したコードを口ずさんでみましょう。耳の訓練になります。

exercise6c ◀ 補足

● ピアノやギターなどの楽器に合わせて練習するのも良いでしょう。コードを演奏してもらって、ベースは転回したコードをプレイしてみるのです。様々なジャズ・スタンダードを使って、そうした練習をしてみましょう。

exercise7a

16th note rhythm relationship ● 16分音符のリズムの理解

1 70

3

5

7

9

11

13

exercise7a ◀ 主な目的

● 同じリズムの音楽でも、音の長さによって音符としての書き方が変わってきます。同じアタックを持つリズムの中でのわずかな違いを聴き取りましょう。

exercise7b

16th note rhythm ex. easy

●簡単な16分音符のリズム(難易度1)

1 70

3

5

7

9

11

13

15

exercise7b◀主な目的

- 基本的な16分音符のリズムを紹介します。

exercise7b◀練習方法

- 1音のみを使って、また数小節ごとに音を変えて演奏してみましょう。

exercise7b◀ポイント

- 常に各小節で4拍個々のビートを感じるようにします。

exercise7c

16th note rhythm ex. more difficult

●少し難しい16分音符のリズム(難易度2)

1 70

3

5

7

9

11

13

15

exercise7c◀主な目的

- 少し難しい16分音符のリズム・コンビネーションを練習します。

exercise7c◀練習方法

- ドラム・マシンやメトロノームを使って練習してみましょう。
- 1小節ごとに区切り、ひとつのリズム・パターンとして練習してみるの

も良いでしょう。

exercise7c ◀ポイント

●ビデオのデモンストレーションでは、4小節ごとにルート音を変えながら演奏していることに注目してください。そうすることによって、エクササイズにヴァリエーションを与えることができます。

exercise7d

16th note rhythm ex. hard

●難しい16分音符のリズム(難易度3)

70

1

3

5

7

9

11

13

15

exercise7d ◀主な目的

●さらに難易度の高い16分音符のリズム・コンビネーションの練習です。

exercise7d ◀練習方法

●自分でうまくプレイできない部分があれば、その部分を重視した自分なりのエクササイズを作ってみましょう。

●2小節区切り、または4小節区切りで逆に演奏してみるのも練習になります。

exercise7d ◀ポイント

●リズムが読めるということは、演奏する上で重要な要素となります。

exercise7e

16th note duration relationship ● 16分音符の長さの理解

1 70

3

5

7

9

11

13

exercise7e ◀ 主な目的

- タイのある16分音符のリズムを理解します。

exercise7e ◀ 練習方法

- リズムは同じであっても、ひとつひとつ別個のリズムとして考えてみてください。しっかりと譜面を追い、今どの部分を演奏しているのかを常に把握してください。

exercise7e ◀ ポイント

- 同じリズムでも、記譜法が異なることに注意してください。例えば、同じリズムでも異なる記譜法のものを自分で書き出してみると良いでしょう。

exercise7f

16th note tie exercise easy

● 簡単なタイ付き16分音符 (難易度1)

1 70

3

5

7

9

11

13

15

exercise7f ◀ 主な目的

- 基本的なタイ付き16分音符のリズムに慣れる練習です。

exercise7f ◀ 練習方法

- まずはリズムを手や何かで叩いてみます。そして音の長さをつかむた

めに口ずさんでみましょう。

exercise7f ◀ポイント

- タイの部分の音の長さをしっかりと取ってください。

exercise7g

16th note tie exercise more difficult

- 少し難しいタイ付き16分音符(難易度2)

1 70

3

5

7

9

11

13

15

※このリックのみ冒頭のカウントが3つで始まっていますのでご注意ください。

exercise7g ◀主な目的

- 少し難しいタイ付き16分音符のリズムに慣れる練習です。

exercise7g ◀練習方法

- 最初はタイなしで演奏してみましょう。それができてからタイを加えてみます。そしてその違いを理解しましょう。

exercise7g ◀ポイント

- 平坦なリズムと、スイング感を付けたリズムとの両方で演奏してみましょう。

exercise7h

16th note tie exercise hard

●難しいタイ付き16分音符(難易度3)

1 70

3

5

7

9

11

13

15

exercise7h◀主な目的

●タイによってリズムが難しく複雑になることを理解します。

exercise7h◀練習方法

●このエクササイズを、自分にとってわかりやすい記譜法に書き直してみましよう。また、異なる記譜法による16分音符のリズム・コンビネーションでも、音の長さが同じものを見つけてみましょう。

exercise7h◀ポイント

●楽譜を書くにあたって重要なことは、ミュージシャンの読譜力を試すのではなく、自分の意図した通りに正しく演奏されるかということです。したがって、わかりやすくシンプルに書くことが大切です。必要でなければ、タイは使い過ぎない方がよいでしょう。

●このエクササイズはあくまでもエクササイズとして書かれたもので、読譜するのは難しいと思います。通常はこのような譜面はあまり見ることはないかと思います。

exercise8a

classical piece ● クラシカル・エチュード1

1

7 9 10 9 10 7 10 9 9 7 10 9 7 7 10

4

9 7 6 7 7 10 8 7 8 10 7 7 6 7 7 7

7

10 10 9 7 7 10 7 7 9 10 7 7 7 10 9

11

10 10 7 9 10 10 10 10 9 7 9 9 9 7 9 9 7 6

15

7 10 7 9 9 6 7 7 10 10 9 7 7

exercise8a ◀ 主な目的

● 基本的なクラシック音楽のメロディに慣れるための練習曲です。

exercise8a ◀ 練習方法

● 異なるフィンガリングやポジションを使って演奏してみましょう。その結果、サウンド的にベストだと思うフィンガリングやポジションを選びま

しょう。決して楽なフィンガリングやポジションを選ばないでください。

exercise8a ◀ ポイント

● 有名な演奏家達のフレージングにも興味が出てくるはずです。

exercise8b

Bach minuet ● クラシカル・エチュード2(バッハのメヌエット)

1

8 7 8 5 6 8 6 7 5 5 4 5 6 8 4

4

3 5 5 5 4 7 8 7 8 5 6 8 6 7 5

7

5 4 5 6 8 4 3 5 4 10 9 12 10 13 12

10

10 13 12 13 10 13 12 10 13 12 10 13 12 10 12 13 11

13

10 13 13 12 13 10 11 10 13 12 13 12 10 13 12 13 12

exercise9b

minor blues 8th note solo

●8分音符によるマイナー・ブルースのソロ

52 - 2&4 Cmin7

1

Fmin7

4

Cmin7

Dm7(b5)

7

G7(b9)

Cmin7

G7(b9)

10

exercise9b 主な目的

●マイナー・ブルースにおいて、8分音符が連なるソロを組み立てます。

exercise9b 練習方法

- 4小節ごとに区切って、ゆっくりとしたテンポで練習してみましょう。
- 自分でも8分音符を使ったソロを書いてみて、それを弾いてみてください。

●スイング感をつかむために、優れたジャズ・ミュージシャンの演奏を参考にしてみましょう。

exercise9b ポイント

- ピアノやギターなどの楽器に合わせて演奏すると良いでしょう。
- 自分の演奏を録音して聴き直してみるのも良い練習のひとつです。

exercise10a

modern blues solo ●モダン・ブルースのソロ

52 FMaj7 Em7(b5) A7(b9) Dmin7 G7

1

Cmin7 F7

BbMaj7

Bbmin7 Eb7

4

Amin7 D7

Abmin7 Db7

Gmin7

7

C7

FMaj7 D7

Gmin7C7

10

exercise 10a ◀ 主な目的

- モダン・ブルースにおける基本的なソロの組み立て方を紹介します。

exercise 10a ◀ 練習方法

- ビデオでの私の演奏に合わせて練習してみてください。
- 休符によるスペースを充分に取り、コード・トーンだけを使って演奏してみましょう。

exercise 10a ◀ ポイント

- 最初は簡単な全音符や2分音符を使ってソロを演奏してみましょう。

exercise 10b

modern blues 8th note solo

- 8分音符によるモダン・ブルースのソロ

52 FMaj7 Em7(♭5) A7(♭9) Dmin7 G7

1

4 Cmin7 F7 B♭Maj7 B♭min7 E♭7

7 Amin7 D7 A♭min7 D♭7 Gmin7

10 C7 FMaj7 D7 Gmin7 C7

Detailed description of exercise 10b: This is a bass line exercise for a modern blues 8th note solo. It consists of 12 measures in 4/4 time, starting on the 52nd measure of a piece. The key signature has one flat (Bb). The exercise is divided into four systems of three measures each. Each system includes a staff with eighth notes and a fretboard diagram below it. The chords and fret numbers are as follows:
System 1 (Measures 1-3): Chords FMaj7, Em7(♭5), A7(♭9), Dmin7, G7. Fret numbers: 12, 13, 15, 12, 13, 15, 12, 14, 15, 12, 14, 15, 17, 15, 14, 12, 15, 12, 14, 15, 12.
System 2 (Measures 4-6): Chords Cmin7, F7, B♭Maj7, B♭min7, E♭7. Fret numbers: 13, 15, 12, 13, 12, 13, 15, 11, 12, 13, 14, 15, 12, 15, 13, 11, 15, 13, 13, 11, 15, 13.
System 3 (Measures 7-9): Chords Amin7, D7, A♭min7, D♭7, Gmin7. Fret numbers: 12, 15, 14, 12, 11, 12, 15, 12, 11, 13, 14, 11, 13, 14, 14, 13, 11, 15, 12, 13, 15, 12, 14, 15, 12.
System 4 (Measures 10-12): Chords C7, FMaj7, D7, Gmin7, C7. Fret numbers: 14, 12, 15, 13, 15, 13, 15, 13, 12, 15, 12, 15, 14, 12, 13, 15, 12, 13, 12, 15, 13, 15, 13, 15.

exercise 10b ◀ 主な目的

- モダン・ブルースにおいて、8分音符が連なるソロを組み立てます。

exercise 10b ◀ 練習方法

- 数小節ごとに区切って、ゆっくりとしたテンポで練習してみましょう。慣れてきたらビデオでの私の演奏に合わせて練習してみてください。

exercise 10b ◀ ポイント

- このエクササイズと同じコード進行が含まれているジャズ・スタンダード曲を聴いてみましょう。そして、自分のソロを譜面にして、曲に合わせて弾いてみましょう。

PART 3

Slap Bass Technique

スラップ・テクニック

パート3では、スラップ・テクニックに焦点を当てます。

最初はサムピング(親指のスラッピング)と人差し指によるプルを身に付ける練習で、これらはスラップの基本であり、あらゆるスラップ・ベース・プレイに欠かすことができません。重要なことは、サムピングとプルとの独立性を養い、ひとつひとつはっきりとしたツブのあるサウンドを出すことです。

またハンマリング・オンとプリング・オフのテクニックにも注目してください。最後は、このパートで学んだスラップ・テクニックを活かしたグルーヴ・エクササイズを紹介しています。

exercise 11a

double thumbing ● ダブル・サムピングとプル

1 90

9 7 6 5 | 4 6 7 8
7 7 5 5 4 4 3 3 | 2 2 4 4 5 5 6 6

3

9 7 6 5 | 4 6 7 8
7 7 5 5 4 4 3 3 | 2 2 4 4 5 5 6 6

5

9 7 6 5 | 4 6 7 8
7 7 5 5 4 4 3 3 | 2 2 4 4 5 5 6 6

7

9 7 6 5 | 4 6 7 8
7 7 5 5 4 4 3 3 | 2 2 4 4 5 5 6 6

exercise 11a ◀ 主な目的

●サムピング(親指のスラップ)によって、2つの連続した音を演奏できるようにします。

exercise 11a ◀ 練習方法

●4小節ごとにリピート(繰り返し)記号が付いていますので、別々のエクササイズと思ってそれぞれを繰り返し練習してください。

●ドラム・マシンなどでリズムをプログラムして、それに合わせて練習してみると良いでしょう。

●pは、人差し指によるプルです。

exercise 11a ◀ ポイント

すべての音のアタックの強さが同じであることが重要です。4弦(E弦)と3弦(A弦)は弦の太さが違うので、サムピングする時にどちらの弦でも同じアクセントを付けられるようになるには時間がかかると思います。

exercise 11b

triple thumbing ● トリプル・サムピングとプル

1 90

9 7 6 5 4 6 7 8

777 555 444 333 222 444 555 666

3

9 7 6 5 4 6 7 8

777 555 444 333 222 444 555 666

5

9 7 6 5 4 6 7 8

777 555 444 333 222 444 555 666

7

9 7 6 5 4 6 7 8

777 555 444 333 222 444 555 666

exercise 11b ◀ 主な目的

- サムピングによって、3つの連続した音を演奏できるようにします。

exercise 11b ◀ 練習方法

- exercise 11a 同様、4小節ごとに別々のエクササイズだと思って練習してみてください。
- 最初はゆっくりとしたテンポから始めて、慣れてきたらできるだけテンポを速めていきましょう。

exercise 11b ◀ ポイント

- 演奏のための持久力を養うこともできます。

exercise 11c

thumb & double pop ● サムピングと2つ打ち

1 90

9 7 6 5 4 6 7 8

7 5 4 3 2 4 5 6

3

9 7 6 5 4 6 7 8

7 5 4 3 2 4 5 6

5

9 7 6 5 4 6 7 8

7 5 4 3 2 4 5 6

7

9 7 6 5 4 6 7 8

7 5 4 3 2 4 5 6

exercise 11c ◀ 主な目的

- サムピングに続くオクターヴ高い音を2つ連続して演奏するオクターヴ・パターンを練習します。

exercise 11c ◀ 練習方法

- 最初は1つの音符のみで練習してみましょう。その後は、4小節ごとに別々に練習してみてください。

exercise 11c ◀ ポイント

- 楽譜に記載されている記号p(プル)の位置に注目してください。ビデ

オでは最初の高い音のみをプルして、2つ目の高い音はサムピングしています。したがってここで言う2つ打ちとは、プルとサムピングとのコンビネーションです。この場合、2つの音をできるだけ同じサウンドにするのが難しい点です。

exercise 11d

combining double thumb & pop

●ダブル・サムピングと2つ打ち

1 80

3

5

7

exercise 11d ◀ 主な目的

●サムピングによる2つの連続した音に続き、オクターヴ高い音も2つ連続して演奏するオクターヴ・パターンを練習します。

exercise 11d ◀ 練習方法

- 最初は1つの音符のみで練習してみましょう。
- 2つ打ちはexercise 11c同様、プルとサムピングとのコンビネーションです。
- ダブル・サムピングと2つ打ちの繰り返しを、オクターヴではなくサークル・オヴ・フィフス(五度圏)の進行に当てはめ、C/G/D/A/E/B/Fと上行していく練習にも取り組んでみましょう。

exercise 11d ◀ ポイント

●exercise 11のエクササイズの前には、器用さを養い、楽器をコントロールしてスムーズに演奏することにも役立ちます。

exercise 11e

thumb & triple pop ● サムピングと3つ打ち

1 80 p p p p p p p p p p

9 9 9 7 7 7 6 6 6 5 5 5 4 4 4 6 6 6 7 7 7 8 8 8
7 5 4 3 2 4 5 6

3 p p p p p p p p p p

9 9 9 7 7 7 6 6 6 5 5 5 4 4 4 6 6 6 7 7 7 8 8 8
7 5 4 3 2 4 5 6

5 p p p p p p p p p p

9 9 9 7 7 7 6 6 6 5 5 5 4 4 4 6 6 6 7 7 7 8 8 8
7 5 4 3 2 4 5 6

7 p p p p p p p p p p

9 9 9 7 7 7 6 6 6 5 5 5 4 4 4 6 6 6 7 7 7 8 8 8
7 5 4 3 2 4 5 6

exercise 11e ◀ 主な目的

● サムピングに続くオクターヴ高い音を3つ連続して演奏するオクターヴ・パターンを練習します。

exercise 11e ◀ 練習方法

- 今回のエクササイズテクニックの中では特に難しいものです。ゆっくりとしたテンポで練習してみましょう。
- ドラム・マシンなどでパーカッシヴなサウンドを出しながら、それに合わせて練習してみると良いでしょう。

exercise 11e ◀ ポイント

● ビデオでは、最初の高い音のみをプルして、後の2つの高い音はサムピングしています。したがってここで言う3つ打ちとは、プルとダブル・サムピングとのコンビネーションです。3つ打ちのアタックはすべて均一でなければいけません。● 弦をミュートし、音と音との間のスペースをきちんと取るように心掛けてください。

exercise 12a

hammer-on & pull-off exercise

● ハンマリング・オンとプリング・オフ

50 & 100 2 Speeds Fast & Slow

1

9 9 7 7 9 9 7 7 9 9 7 7 5 5 7 7 5 5 7 7 5 5 7 7

3

5 5 7 7 5 5 7 7 5 5 3 3 5 5 3 3 5 5 7 7 5 5 7 7

5

0 0 3 3 5 5 3 3 5 5 7 7 5 5 7 7 5 5 7 7 5 5 7 7

7

5 5 7 7 5 5 7 7 9 9 7 7 9 9 7 7 9 9 12 12 9 9 7 7

exercise 12a ◀ 主な目的

●ハンマリング・オンとプリング・オフを使って16分音符をしっかりと演奏できるようにする練習です。

exercise 12a ◀ 練習方法

●まずはプリング・オフのテクニックをマスターしましょう。それからハンマリング・オンというように別々に練習します。どちらもスムーズにできるようになったら、エクササイズのベースラインをゆっくりと演奏してみましょう。

●ハンマリング・オンとプリング・オフの場所については、ビデオをよく観てチェックしてください。

●ビデオではアップ・テンポのものも収録してありますので参考にしてください。

exercise 12a ◀ ポイント

●ハンマリング・オンとプリング・オフは、スラッピングには欠かせないテクニックです。また、これらのテクニックによって16分音符のベースラインを弾くときに右手を休めることができます。

●私の演奏通りにプレイしてみましょう。

●難しいベースラインのフレージングを演奏するときにも効果的です。

exercise 12b

continues 16th note ●連続した16分音符のエクササイズ

2 Speeds

The image shows two systems of musical notation for exercise 12b. Each system consists of a bass clef staff with a 16th note signature and a guitar fretboard diagram below it. The first system is marked with '50 & 100' and '1'. The second system is marked with '3'. The notation includes notes with 'p' (piano) markings and slurs. The fretboard diagrams show fingerings for the notes, with numbers 0, 5, 7, 4, and 0 indicating fret positions.

exercise 12b ◀ 主な目的

●ハンマリング・オンのテクニックを使って、連続する16分音符のグルーブ・パターンを練習します。

exercise 12b ◀ 練習方法

●まずは各小節ごとに練習しましょう。

●pは右手人差し指によるプルです。

●開放弦の音からのハンマリング・オンを取り入れた様々なベースラインを作ってみましょう。

exercise 12b ◀ ポイント

●ビデオでは、Dメジャーのペントニック・スケールで演奏していますが、他のスケールも使ってみてください。

●2小節目・4小節目に注意してください。1小節目・3小節目とはタイム感が異なります。これは意図的に行ったもので、タイム・キープの練習にもなります。

exercise 13a

easy slap groove

●簡単なスラップによるグルーブ・エクササイズ

86

1

5

0 3 5 5 7 7

7 0 3 5 5 7 5 7

3

5

0 3 5 5 7 7

7 0 3 5 5 7 5 7

5

5

0 3 0 5 5 7 7

7 0 3 0 5 5 7 5 7

7

10

3 0 5 5 7 5 7 7

9 7 7 5 5 7 5 7 5

exercise 13a ◀ 主な目的

●ハンマリング・オンとプリング・オフのテクニックを使って、基本的なスラップによるグルーブ・パターンを練習します。

exercise 13a ◀ 練習方法

- 4小節や8小節単位で、自分なりのフィルを加えてグルーブを装飾してみてください。
- 様々なキーで似たようなグルーブを作り、譜面にしてみましょう。

exercise 13a ◀ ポイント

- この練習は譜面からリズムを読み取ることに役立ちます。最初はリズムに合わせて手を叩いてみましょう。
- 音の長さには充分注意してください。また、こうしたグルーブではスペースを取ることも必要です。

exercise 13b

slap groove with thumb technique easy

●サムピングを使ったスラップによる簡単なグルーブ・エクササイズ

90

1

9

7 7 7 4 5 5 5 3 3 5 5 3 5 7 7

4

9

7 7 7 4 5 7 5 5 3 3 5 5 3 2 3 0

6

9

7 7 7 4 5 5 5 3 3 5 5 3 5 7 7

8

9

7 7 7 4 5 7 5 5 3 3 5 5 3 2 3 0

exercise 13b ◀ 主な目的

●サムピングを使ったスラップによるグルーブ・パターンを練習します。

exercise 13b ◀ 練習方法

●このグルーブ・エクササイズは、ミュートのための良い練習にもなります。ゆっくりとしたテンポで弾き、左手のミュートと右手の正確な動きに気を付けましょう。

exercise 13b ◀ ポイント

●ビデオでは、すべての弦を使用していますので、異なる弦を使ったスラップの感覚が養えます。

exercise 13c

slap groove with thumb technique more difficult

●サムピングを使ったスラップによる少し難しいグルーブ・エクササイズ

2 speeds

1 60 & 90 p p p p p p p p

5 5 3 3 5 3 3 1 | 6 6 6 7 3 6 3 6 6 3

3 3 3 4 4 4

3 p p p p p p p p

3 3 1 1 1 1 3 1 3 | 5 5 3 4 5 5 5 2

1 1 1 1 2 3 3 3 3

5 p p p p p p p p

5 5 3 4 5 5 3 4 1 | 6 6 6 7 3 6 3 6 6 3

3 3 3 4 4 4 4

7 p p p p p p p p

3 3 1 1 1 3 1 3 | 5 3 3 4 5 5 5 2

1 1 1 1 2 3 3 3 3

exercise 13c ◀ 主な目的

●前のエクササイズよりもさらに難しい、サムピングを使ったスラップによるグルーブ・エクササイズです。演奏の持久力を養うことができます。

exercise 13c ◀ 練習方法

●4小節ごとに別々のベースラインとして練習しましょう。最初の4小節から弾いてみます。後半の4小節は、前半の4小節をさらに難しくしたヴァージョンであることがわかんと思います。

exercise 13c ◀ ポイント

●このベースラインには休符がほとんどありません。いつもクリアでツブの揃ったサウンドを心掛けてください。

●ゆっくりとしたテンポで練習し、スネア・ドラムとのコンビネーションや関係を考えてみましょう。

exercise 13d

slap groove combining techniques

●様々なテクニックを組み合わせたスラップによるグルーブ・エクササイズ

1 86

PART4

Finger Style Groove

フィンガースタイル・グルーヴ

パート4では、R&Bでよく使用されるフィンガースタイルのテクニックを紹介しています。

最初は異なるオクターブ・フィンガリングとそれらのコンビネーションを練習します。これは弦や音程の放れたスキッピングというテクニックには欠かせないものなので、しっかりと身に付けることが大切です。

最後は、これまでの様々な練習をいかした難しいベースラインにも挑戦します。

exercise 14a

right hand octave exercise

●右手のためのオクターヴ・エクササイズ1

110

1

4

7

10

exercise 14a ◀ 主な目的

●一定に、かつ正確に、そして機敏に右手を動かせるようにするエクササイズです。

exercise 14a ◀ 練習方法

- パターンに慣れるまでは、最初の1、2小節だけで練習しましょう。
- メトロノームかドラム・マシーンを使ってテンポをキープしましょう。慣れてきたらテンポを徐々に速めていきましょう。

exercise 14a ◀ ポイント

●ビデオでは2回演奏を行っており、1回目と2回目では右手のテクニックを変えています。1回目は中指(ロー) / 人差し指(ハイ)によるオクターヴ、2回目は人差し指(ロー) / 中指(ハイ)によるオクターヴです。ほとんどのミュージシャンは、こうしたテクニックにてこずっていますので、両方の演奏を練習して右手を自由自在に駆使できるようにしましょう。

exercise 14b

right hand double octave

●右手のためのオクターヴ・エクササイズ2

1 100

3 5 5 2 2 3 3 5 5 3 3 7 7 8 8 5 5

3 0 1 3 1 5 6 3

3 3 7 7 6 6 3 3 8 8 5 5 6 6 3 3

1 5 4 1 6 3 4 1

5 6 6 5 5 4 4 8 8 6 6 3 3 4 4 6 6

4 3 2 6 4 1 2 4

7 4 4 3 3 2 2 6 6 4 4 8 8 7 7 4 4

2 1 0 4 2 6 5 2

9 2 2 1 1 7 7 4 4 2 2 6 6 5 5 2 2

0 4 5 2 0 4 3 0

11 7 7 4 4 5 5 7 7 5 5 4 4 3 3 7 7

5 2 3 5 3 2 1 5

exercise 14b ◀ 主な目的

●オクターヴ高い音を2つ打ちするオクターヴ・パターンの練習です。

exercise 14b ◀ 練習方法

●パターンに慣れるまでは、最初の1、2小節だけで練習しましょう。
●ビデオではドミナント7th・コードのパターンを使っていますが、他のコードも用いて自分でもいくつかのパターンを作り、それを譜面にしてみました。

exercise 14b ◀ ポイント

●この手のリズムはディスコ・ミュージックによくみられたもので、私は「ディスコ練習」と呼んでいます。ひとつ目のオクターヴ高い音をゴースト・ノートにしがちな人もいますが、ここでは、どのアタックも同じ強さにすることが重要です。

exercise 14b ◀ 補足

●R&Bのベースラインを演奏する際にも欠かせないテクニックです。

exercise 15a

basic string skipping

●基本的なスキッピング(弦飛び)・エクササイズ

110

5 7 5 4 5 5 5 7 | 5 4 5 5 7 5

3

7 5 4 7 | 5 5 5 4 5 7 5

exercise 15a ◀ 主な目的

●すべての弦でスキッピング(弦飛び)ができるようにする、シンプルなエクササイズです。

exercise 15a ◀ 練習方法

- ここではミクソリディアンを使っていますが、他のスケールでも練習してみましょう。
- フレット・ノイズに注意して、クリーンで十分な長さの音を出すように心掛けてください。

exercise 15a ◀ ポイント

- 手の動きはなるべく小さくしましょう。
- 短いエクササイズですが、正確な動きを心がけましょう。

exercise 15b

skipping pattern ●スキッピング・パターン・エクササイズ

120

5 4 5 7 5 5 5 4 | 5 7 5 5 5 4 5 7

3

5 4 7 5 | 4 7 6 4 | 4 6 7 4

5 5 5 5 | 5 5 5 5 | 5 5 5 5

6

5 7 4 5 | 5 7 4 5 7 | 5 4 5 5 7 5 4

exercise 15b ◀ 主な目的

●すべての弦でスキッピング(弦飛び)ができるようにする、さらに難しいエクササイズです。

exercise 15b ◀ 練習方法

●最初は上行と下行とを別々に練習してください。

exercise 15b ◀ ポイント

●5弦ベース、6弦ベースを弾いている人は、すべての弦でこれらのパターン練習を行なってください。

exercise 15c

diatonic triad skipping pattern

●ダイアトニック・トライアドによるスキッピング・パターン

1 120

3

6

exercise 15c ◀ 主な目的

●コード・サウンドを取り入れてスキッピング・パターンの練習をします。

exercise 15c ◀ 練習方法

●ここではミクソリディアンのダイアトニック・トライアドを使っていますが、他のスケールのダイアトニック・トライアドを使用したパターンでも練習してみましょう。動きの違いによって、それぞれが少しずつ異なる練習となるはずですが。

exercise 15c ◀ ポイント

●下行パターンでは、演奏する音の順番を変えているので気を付けてください。

exercise 15d

double skipping over two chords

●2コードにおけるダブル・スキッピング

1 100

3

5

7

exercise 15d ◀ 主な目的

●16分音符によるグルーヴでのスキッピングによって、演奏のための持久力を養います。

exercise 15d ◀ 練習方法

●最初は前半の4小節と後半の4小節とを分けて練習しましょう。

exercise 15d ◀ ポイント

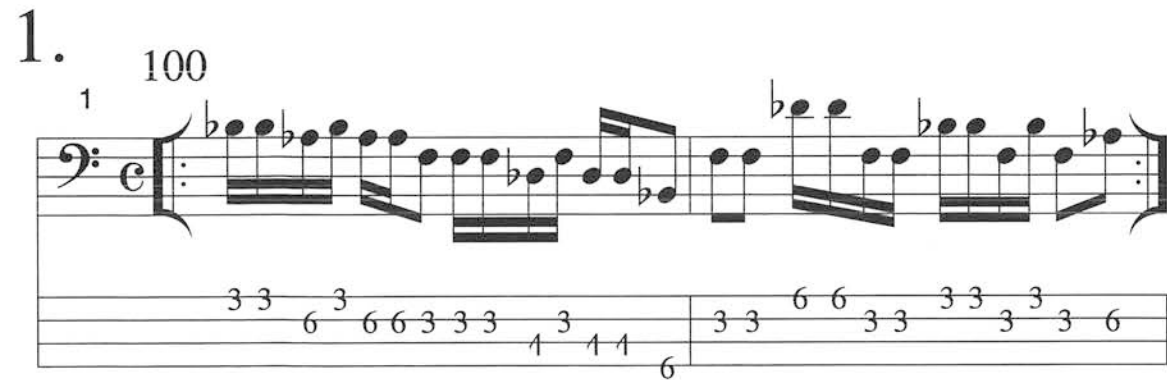
●後半の4小節は、前半の4小節とは少しだけ違うベースラインですが、右手の動きはかなり難しいものになっています。

exercise 16

right hand string crossing

●右手のためのストリング・クロッシング・エクササイズ1&2

1. 100




3



2. 100

5



7



exercise 16 ◀ 主な目的

●さらに右手の動きが難しいパターンに取り組みます。

exercise 16 ◀ 練習方法

●このエクササイズは、速く弾けば弾くほど難しくなっていきます。最初は前半の2小節と後半の2小節とを分けて練習しましょう。

exercise 16 ◀ ポイント

●タブ譜をしっかりとチェックして、譜面通りに弾くことが大切です。

exercise 17a

groove with octave skipping

●オクターヴ・スキッピングによるグルーブ・エクササイズ

1 80



3



5



7



9



11



exercise 17a ◀ 主な目的

● 難しいオクターヴ・フィンガリングをマスターするコンビネーション・エクササイズです。

exercise 17a ◀ 練習方法

● 最初は前半の8小節と後半の8小節とを分けて練習しましょう。ゆっくりとしたテンポで始め、慣れてきたら徐々にテンポを速めてください。

exercise 17a ◀ ポイント

● 後半の8小節、特に12小節目における右手のフィンガリングに気を付けてください。

exercise 17b

groove with right hand crossing

● 右手のためのストリング・クロッシング・エクササイズ3(グルーブ・エクササイズ)

13

15

exercise 17b ◀ 主な目的

● 難しい16分音符の右手フィンガリングに取り組むエクササイズです。

exercise 17b ◀ 練習方法

● 最初は4小節ごとに分けて練習すると良いでしょう。最低でも3回は間違いなしに全体を繰り返して演奏できるようになりたいものです。

exercise 17b ◀ ポイント

● すべての弦において、音の長さや強さを一定に保てるようにしましょう。

exercise 17c

groove-combining techniques

● 様々なテクニックを組み合わせたグルーブ・エクササイズ

1 100

3

5

7

9

デモ演奏について

demonstration 1

ここでは様々なスラッピングのテクニックを使用しています。サムピングとプルのコンビネーションに注目してください。個人的には「ここはスラップのグルーブ」、「ここはフィンガースタイルのグルーブ」というようにはっきりと分けて考えないことが大事だと考えています。スラッピングというのも自己表現のためのひとつの手段ですから。

demonstration 2

音数の多い8分の6拍子感覚のデモンストレーションです。拍子は2拍子で取ります。パート1で紹介したペントニックのスケールやパターンを、どのように使うかの良い例となっています。Aセクションのベースラインは、基本的にFマイナーのペントニック・パターンになっています。曲の感じをつかんだりテンポをキープすることが難しいと思います。曲の終わりでは、ドラマーにフィルインを演奏するためのスペースを与え、私はテンポをしっかりとキープすることに終始しています。

demonstration 3

このデモンストレーションでは、ミュートロンIIIをエフェクターとして使用しています。ミュートロンは、ブーツィー・コリンズがパーラメント/ファンカデリックのバンドで使用していたことで知られています。このエフェクターによって、私が速いパッセージを弾いている時とロング・ノート弾いている時とではどのような違いがあるかを聴いてみてください。曲を構成するAセクションとBセクションとでは、大きな違いがあることがわかるでしょう。エフェクターを使って演奏すると、プレイの感じは変わってきます。まず音のレスポンスが変わってくるので、それをふまえてサウンドにフィットするようにベースラインを演奏しなければなりません。ミュートロンや他のエフェクターを使って演奏してみてください。それによって自分の演奏に違った色合いを出すことができます。特にミュートロンを使うと、70年代にタイム・スリップした感じになります。

The image displays three systems of musical notation for exercise 17c. Each system consists of a bass staff and a guitar fretboard diagram. The first system is labeled '11' and shows a bass line with a complex rhythmic pattern and a fretboard diagram with fingerings like 6, 4, 5, 6, 8, 4, 6, 6, 5, 4, 3, 13, 11, 13, 13, 11, 12, 11, 12. The second system is labeled '13' and shows a similar bass line with a different rhythmic pattern and a fretboard diagram with fingerings like 6, 6, 6, 4, 3, 6, 8, 6, 6, 5, 6, 4, 6, 6, 4, 6, 4, 5, 6, 6, 7, 8. The third system is labeled '15' and shows a bass line with a complex rhythmic pattern and a fretboard diagram with fingerings like 6, 3, 6, 4, 6, 6, 4, 6, 4, 5, 6, 4, 4, 13, 11, 13, 13, 11, 12, 11, 12.

exercise 17c ◀ 主な目的

●最後は、これまで練習してきた様々なテクニックを取り入れた、非常に難しいグルーブ・エクササイズに挑戦しましょう。

exercise 17c ◀ 練習方法

●4小節ごとに分けて練習しましょう。私がビデオで使用しているフレージングをつかんでください。

exercise 17c ◀ ポイント

●一定のグルーブの上で、私がどのように装飾していくかに注目してください。

demonstration 4

"Confidence Cat" by Tomo Fujita

最後のデモンストレーションは、かなり音数の多いファンク・フュージョンです。速いパッセージのベースラインでも、グルーヴはしっかりと出さなくてはなりません。そのポイントはスペースにあります。音数が多くなったとしても、それぞれの16分音符の間や区切りをはっきりとさせることが大切です。他に注目してもらいたいのは、メロディに合わせての演奏とギター・ソロのバックでの演奏との違いです。メロディ部では、あくまでもメロディの後ろで演奏の基盤となるような一定したベースラインを演奏していますが、ギター・ソロ部では、もっと自由にオープンなベースラインを考え、インプロヴィゼーションも取り入れています。「ベースはサポートに徹する楽器」という枠を広げてみてください。

おわりに

最初にも言いましたが、例え練習であっても楽しんで演奏するという心を心がけてください。

我々は自分の好きな音楽のみに興味を示しがちですが、ここではあらゆる音楽の演奏に対応できるように、アプローチの仕方を整理してあります。ですから、たっぷりと練習に時間をかけてください。多くの音楽スタイルを学べば、ベース演奏におけるあなたのポキャブラリーは、どんどん広がっていきます。例えば、あなたがラテン音楽のベースに興味がないとしても、ラテン音楽を理解することによってタイム感やリズム感を大いに養うことができます。あらゆる音楽には、あなたにとって役に立ち、あなたを向上させる“何か”があるのです。私個人としてはオール・ラウンドなプレイヤーを目指しており、あらゆる音楽が弾けるようになることを喜びとしていますが、あなたの目指すことは私とは異なるかもしれません。しかし、音楽言語というものの自体は世界共通のものなのです。

プロフィール

ニューヨーク出身。

1982年から86年までバークリー音楽院で学び、ミュージック・プロダクションとエンジニアリングの学位を得て卒業。

その後5年間は、アトランティックシティ、ニュージャージー、キャットスキルズ、ニューヨークなどでサミー・デイヴィスJr., ボビー・ヴィントン, ネル・カーター, ジョージ・バーンズなどの数多くのアーティストのショーでベースを弾く。

1990年にバークリー音楽院で教鞭を執り始め、現在は助教授に就任。コンテンポラリーなプレイ・スタイルと、スラップ・ベースやR&B, 読譜に関する学識で知られている。

演奏活動, レコーディング活動の場はボストンを中心にアメリカ全土に広がり, 共演者もスティーヴ・スミス, グレグ・ビソネット, ジョヴァンニ・ヒダルコ, ジョー・フランコ, トイ・コールドウェル, フェリックス・キャバリエ, ロバート・クラインと幅広い。

テレビやラジオのCM音楽の仕事も数多くこなし, 3冊の教則本とCDを出版・発売している。

Dedication

As always I dedicate this video to the memory of my best friend and brother Jerry. I also want to thank my wonderful wife Sandra and beautiful daughter Victoria. They all give me the time, strength, motivation and desire to do projects like this. Thanks to Tomo Fujita and Sam Kawa for the opportunity to do this project. Special thanks to my Mom and Dad for helping me get where I am.

Anthony Vitti

Endorsements:

Dean Markley Strings

SWR

Fender Basses

Books, original music, links and Bass related information are available on my website at <http://www.anthonyvitti.com>

e-mail me at anthonyvitti@anthonyvitti.com

ベーシストのための
演奏能力開発エクササイズ2

『ベーシストのための演奏能力開発エクササイズ2』解説書

■採譜・解説／アンソニー・ヴィッティ

■翻訳／ミカ・ゴーインズ

■DTP／波多江潤子

■企画制作／株式会社リットーミュージック

※無断複製・転載を禁ずる

VW-212